

※本文内の（ ）内の数値は志願者数の前年度確定数との対比指数を表します。

◎志願者数が多かった大学

□志願者数最多は、2年連続で大阪公立大

〔志願者数上位 10 大学〕

大学	2023年度			2022年度			志願者 増減数	志願者指数	
	募集人員	志願者数	志願倍率	募集人員	志願者数	志願倍率		2023年度 ／ 2022年度	2022年度 ／ 2021年度
大阪公立大	2,447	14,152	5.8	2,447	13,188	5.4	+964	107	96
千葉大	2,069	10,507	5.1	2,069	10,631	5.1	-124	99	92
神戸大	2,301	9,905	4.3	2,301	10,123	4.4	-218	98	99
北海道大	2,381	9,808	4.1	2,392	9,516	4.0	+292	103	110
横浜国立大	1,347	9,471	7.0	1,332	7,300	5.5	+2,171	130	174
東京大	2,960	9,306	3.1	2,960	9,507	3.2	-201	98	105
京都大	2,642	7,827	3.0	2,697	7,570	2.8	+257	103	102
大阪大	2,878	7,398	2.6	2,878	7,501	2.6	-103	99	107
九州大	2,238	7,285	3.3	2,243	7,692	3.4	-407	95	101
静岡大	1,527	6,984	4.6	1,540	6,269	4.1	+715	111	101

※志願者指数は前年度の志願者数を100とする指数

※大阪公立大の2021年度以前は旧大阪市立大と旧大阪府立大の合計

上の表は、文部科学省発表の最終確定値のうち、大学全体の志願者数が多かった国公立大の上位 10 大学をまとめたものです。志願者数が 7,000 人以上だった大学は 9 大学で、前年度と同数でした。前年度は 10 大学中 7 大学が増加だったのに対し、今年度は増加と減少が 5 大学ずつでした。10 大学の中で、第 6 位の東京大、第 8 位の大阪大はいずれも前期のみの募集です。第 7 位の京都大の後期は、特色入試として実施の法学部のみの募集です。

2023 年度入試で志願者数が最も多かったのは、2 年連続で大阪公立大でした。志願者数は 2021 年度の大阪府立大と大阪市立大の合計より減少した前年度に比べて 964 人(107)とやや増加し、1 万 4 千人を上回りました。

第 2 位の千葉大は、124 人(99)の微減でしたが、それでも 2010 年度から 14 年連続で志願者数が 1 万人を上回りました。

第 3 位の神戸大は、218 人(98)減少し、志願者数が 3 年ぶりに 1 万人に届きませんでした。

第 4 位の北海道大は、前期は 125 人(98)の微減でしたが、後期はコロナ禍の影響緩和が進み、道外からの併願増加もあり、前年度の大幅増加に続いて 417 人(110)の増加で、志願者数は 2012 年度以来 11 年ぶりに 4,500 人を上回りました。この結果、前期・後期合計で 292 人(103)増加となり 2 年連続増加となりました。

第 5 位の横浜国立大(130)は、2021 年度にコロナ禍対策として個別試験を中止した影響で、志願者数は 4,189 人と前年度比半減近くになりましたが、前年度から元の個別試験を実施したことで反動増が見られ、今年度は 9,471 人と 2020 年度対比でも 1,890 人も増加しました。この背景には、横浜地区の鉄道新線開業により、東京や埼玉からの通学の利便が向上するという影響もありました。

第 6 位から第 9 位の東京大(98)、京都大(103)、大阪大(99)は難関大志向の高まりと、共通テスト平均点アップにより予定通りの出願を行えた受験生も多く、堅調な出願状況でした。

第 9 位の九州大(95)はコロナ禍の緩和に伴い東京大や京都大といった最難関大への流出が増加したことでやや減少しました。

第 10 位の静岡大は、グローバル共創科学の新設効果もあって、715 人(111)の増加でした。